



認知症になっても希望を持って暮らしていけること
ほっかいどう希望大使（認知症本人大使）

若 年 性

認 知 症

を理解するセミナー



48歳の時に若年性アルツハイマー型認知症を発症し、周囲の理解とサポートにより仕事を続け、生活をしている松本健太郎さんと公認支援者である砂川市立病院の大辻誠司さんをお招きし、認知症への理解を深めるセミナーを開催します。

日時

11月7日 金
13:30-15:00

会場

滝川市民交流プラザ
1階 小ホール

滝川市明神町2丁目2-16（ホテルスエヒロ内）

申込締め切り

10月31日 金

お申込み▶滝川市地域包括支援センター

☎ 0125-28-8029

「認知症になっても
安心して暮らせる
地域づくり」情報

滝川市公式HP



令和7年度 滝川市認知症サポーター養成講座を兼ねています。

「できることで世間の役に立つ」

松本健太郎さんは、燃料・設備販売の会社で営業として働いていた48歳の時に、若年性アルツハイマー型認知症と診断を受けました。

現在も同じ会社に勤務し、家族、病院、職場の皆さんの理解とサポートにより仕事を続け、生活しています。

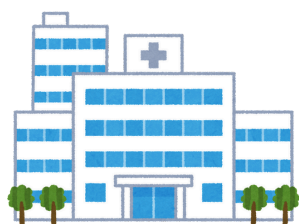
また、この病気になると、周囲のサポートが必要となります。

何か「おかしいな」と感じたら病院で早く診てもらい、症状を進行させないように伝えたいとおっしゃっています。



R6年8月北海道庁は、認知症になっても希望を持って暮らしていけることを発信する、ほっかいどう希望大使（認知症本人大使）を3名任命しました。

認知症当事者の方々やご家族などに希望をもたらし、認知症の方への理解を深める役割を担います。



公認支援者である、砂川市立病院の大辻誠司さんと一緒に診断前、診断後、現在の仕事や生活について講話します。



松本さんの経験を記録したブログ「あるつは今」を公開しています。

ブログは
こちらから

ホーム 日記 食事と日々の生活
病院と精神保健福祉士との共生

